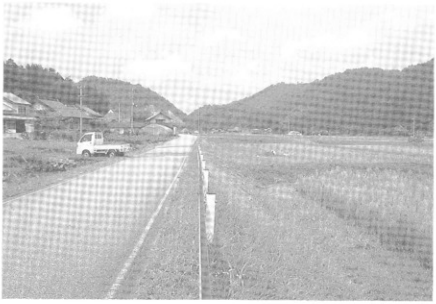
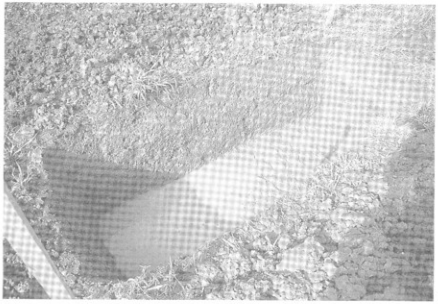
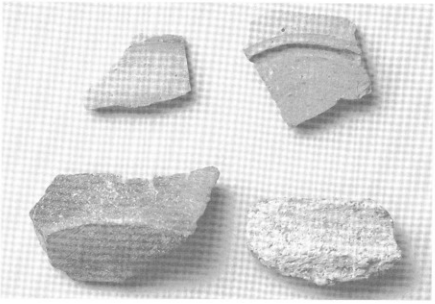
図版10



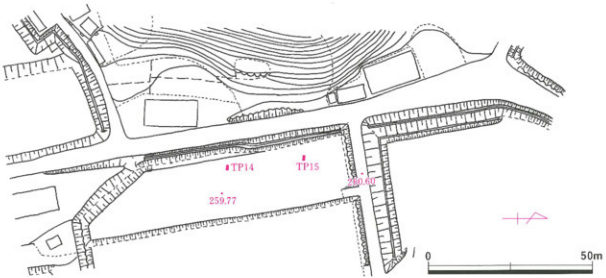
1．本郷付近遠景（南より）



2．完掘状況



3．出土遺物

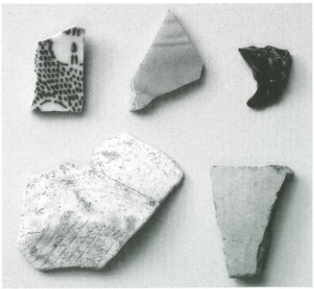



第14図　土居丸館付近試掘調査区配置図

図版11

1．土居丸館付近遠景（北より）

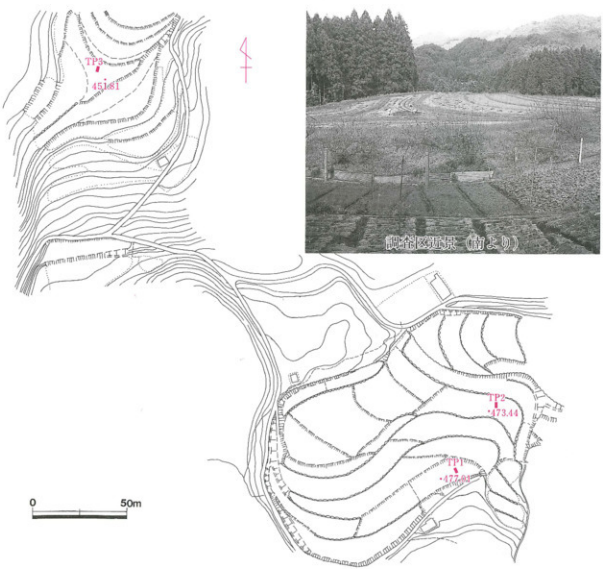
2．完掘状況



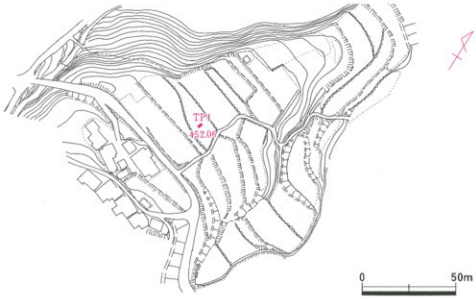
3．出土遺物

## 第２節　徳次地区

| | |
|---|---|
| ①住所 | 津和野町名賀 |
| ②調査内容 | 試掘４ケ |
| ③調査結果 | 遺跡の存在は確認されなかった。 |
| ④遺跡の時代と種類 | なし |
| ⑤主な発見遺構 | なし |
| ⑥主な出土品と概数 | 土師器ビニール１袋、陶磁器ビニール１袋 |
| ⑦調査所見 | 県営中山間地総合整備事業（ほ場整備）にともなう試掘確認調査。<br>４ヶ所の試掘を実施した。いずれの調査区からも遺構は確認できず、一部の調査区で近世以降の可能性のある土師器小片が出土したのみで、遺跡の存在は確認できなかった。 |




第15図　徳次付近試掘調査区配置図(1)




第16図　徳次付近
試掘調査区配置図(2)

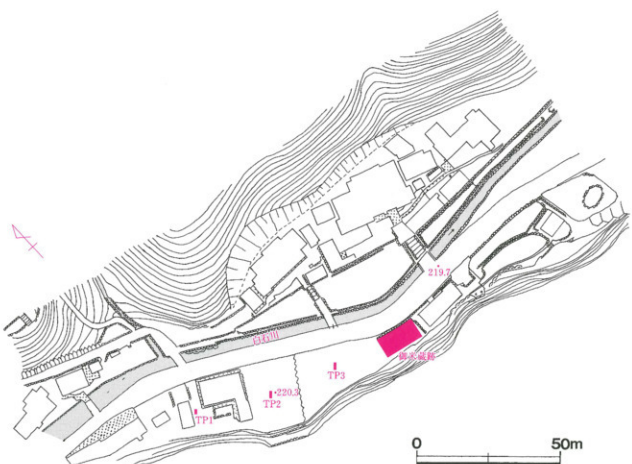
図版12

1．完掘状況

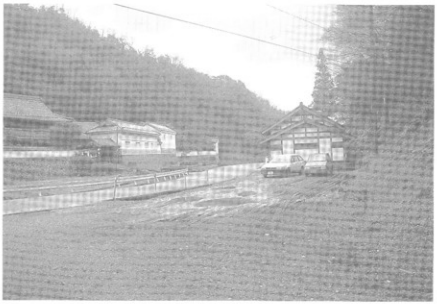
2．出土遺物

## 第３節　堀氏関連

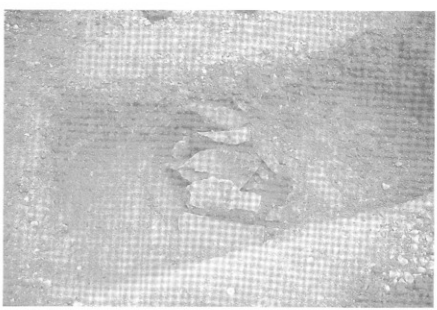
| | |
|---|---|
| ①住所 | 津和野町邑輝 |
| ②調査内容 | 試掘４ケ |
| ③調査結果 | 遺跡の存在が確認された。 |
| ④遺跡の時代と種類 | 近代の屋敷跡 |
| ⑤主な発見遺構 | 石組暗渠、蔵基礎 |
| ⑥主な出土物と概数 | 土師器ビニール１袋、陶磁器ビニール１袋、瓦ビニール１袋、金属製品ビニール１袋 |
| ⑦調査所見 | 県道津和野田万川線建設工事にともなう遺跡確認調査。<br>周知の遺跡である畑迫遺跡が存在している。３ヶ所の試掘を実施したところ、１ヶ所で近代の暗渠遺構が検出された。また、試掘調査地南東側に基礎石列を伴ったレンガ敷き遺構が遺存しており、清掃による確認調査を実施した。これらの遺跡は出土遺物・伝聞から、近代の笹ヶ谷銅山を経営していた堀家の営繕場および御米倉の跡であると考えられる。 |



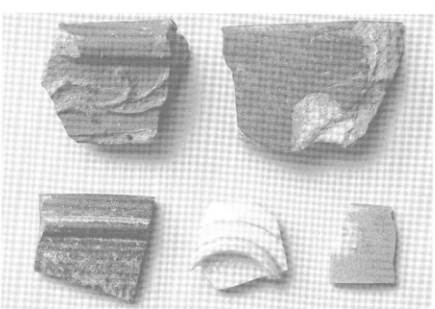

第17図　堀氏関連遺構試掘調査区配置図



1．調査区近景（南西より）



2．暗渠遺構

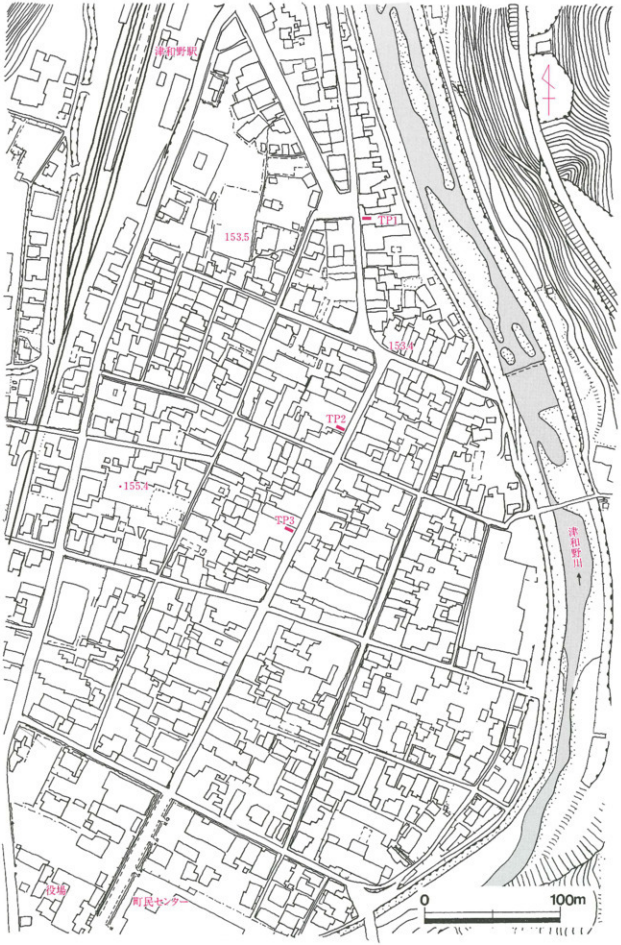


3．出土遺物

# 第６章　平成16年度　発掘調査概要

## 第１節　祇園町・本町地区

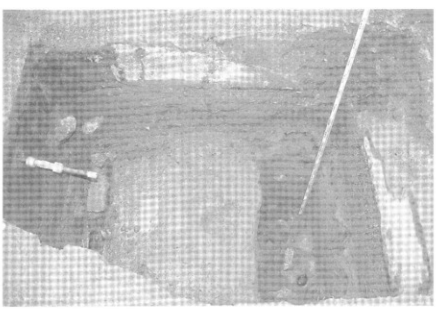
| | |
|---|---|
| ①住所 | 津和野町後田 |
| ②調査内容 | 試掘３ケ |
| ③調査結果 | 遺跡の存在を確認した。 |
| ④遺跡の時代と種類 | 中世～近世の集落跡・城下町 |
| ⑤主な発見遺構 | 基礎石列、ピット |
| ⑥主な出土品と概数 | 陶磁器類コンテナ１箱、土師器類コンテナ１箱、<br>瓦質土器類コンテナ１箱、瓦類コンテナ１箱、<br>石製品類コンテナ１箱、金属製品類コンテナ１箱 |
| ⑦調査所見 | 祇園丁地区で１ヶ所（TP1）、本町地区で２ヶ所（TP2・3）の試掘調査を実施した。いずれの調査区からも近世の基礎石列が検出され、遺構面は火災の痕跡である焼土で覆われていた。各調査区の遺構最下面は、現地表から約0.8m 以下であり、現在までに盛土が繰り返されてきたことが分かる。また、本町地区の TP2・3からは中世後半に遡る可能性のある陶磁器・土師器・瓦質土器等が出土している。祇園丁地区の以前の調査でも、同様の遺物が出土しており、これらの地区には文献調査で指摘されている「本市」「今市」といった近世城下町以前の中世市場集落が存在していた可能性が高いと考えられる。<br>なお、今回の試掘確認調査、およびこれまでの本発掘調査・立会調査の結果から考えると、城下町絵図で描かれた範囲に城下町の遺跡が存在していることが推定されることから、この遺跡を津和野城下町遺跡として発見通知を提出した。これにともない、祇園町遺跡、山根遺跡、森遺跡などの遺跡は津和野城下町遺跡に統合し、これまでの遺跡名は地区名として呼称することとした。 |



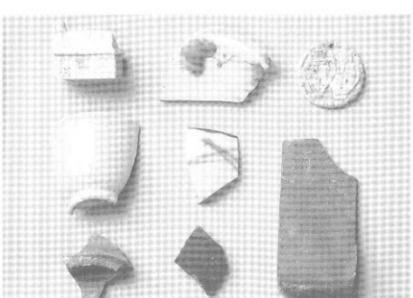

第18図　祇園町・本町付近試掘調査区配置図

図版14

1．TP1（祇園町）近景
（北西より）

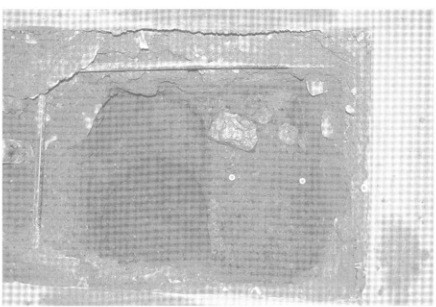


2．TP1完掘状況（南より）



3．出土遺物

1．TP3(本町) 近景（北東より）



2．TP3完掘状況（北より）

3．出土遺物

# 第７章　平成17年度　発掘調査概要

## 第１節　森村・祇園町地区

①住所　津和野町森村・後田

②調査内容　試掘６ケ

③調査結果　遺跡の遺存状況を確認した。

④遺跡の時代と種類　弥生～古墳時代・古代の散布地、中世～近世の集落跡・城下町

⑤主な発見遺構　基礎石、堀、胴木、根石、集石、土坑、ピット

⑥主な出土品と概数　陶磁器類ビニール７袋、瓦類コンテナ１箱・ビニール６袋、
金属製品類ビニール７袋、木製品類コンテナ１箱、
煉瓦類コンテナ１箱

⑦調査所見　調査番号S1～S6の６地点で調査を実施した。

S1　調査区はTP1・2の２ヶ所である。

TP1　近世の基礎石等を確認した。

TP2　近世の胴木・杭・根石等を確認した。城下絵図との対比から近世の津和野城外堀遺構の一部と考えられる。

S2　近世の焼土層と焼石等を確認した。焼土層からは大量の陶磁器・瓦が出土した。

S3　近世の集石面等を確認した。

S4　近世の土坑・ピット等を確認した。

S5　近世の基礎石・集石等を確認した。

S6　近世の焼土等を確認した。

調査地点のうちS1・5からは比較的焼土層が少なく、S2～4・6では比較的焼土層が多い状況であった。このことは、比較的建物が密集しておらず火災の影響を受けにくい中級武家地と、比較的建物が密集している町屋での城下町遺跡の状況を示していると考えられる。

また、調査地点の多くの場所から近世城下町以前の中世遺物が出土している。このことから、近世城下町にさかのぼる中世城下町が存在していた可能性が考えられ注目される。なお、古代以前の遺物も少量ながら出土していることから、当時の集落も付近に点在していた可能性が明らかとなった。